

ロータリー財団委員会 よく尋ねられる質問

ロータリーの1億ドルのチャレンジ

ロータリーは、今、ロータリーの歴史に残る時を迎えました。私たちの最優先目標である「ポリオのない世界」の実現に向け、米貨2億ドルを提供するために、国際ロータリーとビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団が新しく協同関係を結びました。今回のチャレンジ補助金は、ゲイツ財団が提供した補助金の中でも最も金額の大きいものであり、ポリオ撲滅という目標へ向けた、ロータリーのビジネスモデルに基づくアプローチが大きく認められた象徴であると言えるでしょう。ゲイツ財団は、ロータリーとの関係における重要な活動の一環として、ポリオ撲滅を支援することに同意したのです。

問:この補助金の条件はどのようなものですか。

答:ゲイツ財団はロータリー財団に対し、1億ドルの補助金を提供し、これを受けてロータリーが今後3年間でこれと同額を組み合わせるようになりました。

国際ロータリー理事会とロータリー財団管理委員会は、撲滅目標実現に資金投入が必要不可欠とされるこの時期、同額の組み合わせを求める今回の補助金の申し出を受け入れることに、全会一致で同意しました。ゲイツ財団からの最初の1億ドルは、2008年のポリオ予防接種活動を直接支援するために、ロータリー財団によって、世界保健機関とユニセフを通じて支給されることになります。

ロータリーは、2008年1月1日より3年間にわたって1億ドルの新しい資金を拠出することを約束し、ゲイツ財団からのチャレンジに応えました。このロータリーによる新たなポリオ・プラス募金活動は、2008年7月1日より正式に開始され、2010年12月31日に完了する予定です。

問:ポリオ撲滅にさらなる資金が必要とされるのはなぜですか。

答:2007年2月に開催されたポリオ撲滅全関係者の協議において、世界保健機関事務局長は、撲滅の目標を実現するには撲滅活動への追加資金の投入が緊要であることに言及しました。過去数年間にわたり、ポリオ常在国、リスクの高い国、ウイルス流入国における補助的な予防接種の回数を増やしたことで、ポリオ撲滅活動はさらに活発になりました。インドを例に挙げると、地域によってはほとんど毎月予防接種活動が実施されており、1回ごとに何千万人もの子供たちを対象としています。こういった追加活動を支えるためには、当然、追加の資金や人材が必要となります。

1985年、ロータリーは、ポリオの脅威から世界中の子供たちを解放すること約束しました。そして今、私たちはその寸前まで来ています。ロータリーとゲイツ財団による今回の資金提携は飛躍的な前進をもたらし、ポリオ撲滅という私たちの最終目標の実現へとさらに近づけるものとなるでしょう。ポリオ撲滅のための技術的手段は揃い、すべての子供に予防接種するための手段も整っています。あとは必要なリソースさえ提供されれば、目標は達成できると保健専門家たちは見えています。

問:ポリオ撲滅への進展は見られているのですか。

答:ポリオ撲滅に向けての進展には、現在も目覚ましいものがあります。1985年にロータリーがポリオ・プラス・プログラムを開始して以来、ポリオの症例数は99パーセント減り、ポリオ常在国の数は125カ国余りから、2006年末のわずか4カ国にまで減少しました。残る最後の1パーセントに見られるポリオの感染は、地理的な孤立、公共インフラの不足、武装紛争、文化的障壁といった要因のために、予防が最も困難であると考えられています。

2007年の世界的なポリオの症例数は、2006年より推定40パーセント減となることを見込まれています。残されたポリオ常在4カ国(インド、ナイジェリア、パキスタン、アフガニスタン)においても、野生ポリオウイルスが蔓延しているのは非常に限られた地域のみです。世界保健機関は最近、これらポリオ常在国の全4カ国が、撲滅達成に向けて着実に進展していることを確認しました。

問:ポリオ撲滅活動には、ほかにどのような資金提供者がいますか。

答:世界にポリオがないことが証明されるまでには、ロータリーからの投入額は 8 億 5 千万ドル近くに上ると見込まれています。ロータリーはまた、必要な経済的・技術的支援を得るために、世界各国政府にも働きかけを行っています。1995 年以來、ロータリーによる熱心な呼びかけによって、各国政府から米貨 30 億ドルを超える寄付が寄せられました。

海外の援助国は引き続きポリオ撲滅へと支援を提供する見込みですが、マラリア、HIV・エイズ、結核といったほかの公共保健問題へ向けられる資金との競争が激しくなっているのも事実です。ロータリーとゲイツ財団のこの共同での取り組みが、ほかの財団や各国政府、非政府組織をはじめとする寄付者に対し、ポリオ根絶に必要なリソースの確保に立ち上がるよう、奮起を促すものとなると期待されています。

問:ロータリー・クラブとロータリアンにどのような支援が求められているのですか。

答:この活動を成功させるには、ロータリー・クラブならびにロータリアンからのご支援が極めて重要です。今後 3 年間、毎年 1,000 ドルを目標とする募金活動を実施するよう各クラブに呼びかけられています。会員一人ひとりも、個人的にこの運動に参加するよう呼びかけられています。ロータリーの優先的プログラムであるポリオ・プラスに参加したことのない比較的新しいクラブや新しい会員には、特に参加が奨励されています。

ロータリーの 1 億ドルのチャレンジは、ロータリーの会員以外からも資金を調達する必要があることを再認識させるものです。これからは世界中の企業や財団に積極的な働きかけをしていかなければなりません。

現在、ゲイツ財団補助金への同額拠出を達成するための具体的な計画が立てられており、数カ月後にこれが発表される予定です。

問:「ロータリーの 1 億ドルのチャレンジ」では財団が今後 3 年間にポリオ撲滅のための 1 億ドルを拠出しなければならないのに、なぜ私たちは年次プログラム基金に寄付すべきなのです。

答:年次プログラム基金は、ロータリー財団の命の源ともいえる存在です。ロータリー財団のプログラムは、ロータリアンによって特定され、ロータリアンからの寄付によって支えられ、プロジェクト実施地のロータリアンによって管理運営されています。このように、年次プログラム基金への寄付はロータリアンとしての「アイデンティティ」を表すものであり、財団プログラムに一層の重要性と力を与えているのです。

年次プログラム基金(「毎年あなたも 100 ドルを」)への寄付は、以下の教育的・人道的プログラムを支えています。

-教育的プログラム:国際親善奨学金、研究グループ交換(GSE)、大学教員のためのロータリー補助金、国際問題研究のためのロータリー・センター

-人道的プログラム:マッチング・グラント、地区補助金、保健、飢餓追放および人間性尊重(3-H)補助金、ボランティア奉仕活動補助金

多くのクラブや地区がこうした活動に参加する一方、世界中のロータリアンは、奨学生の候補者を探し出し、GSE チームを選出し、マッチング・グラントでほかのクラブと協同して活動し、地区補助金を活用して地元社会での質の高いプロジェクトに寄付を活用しています。

(マッチング・グラントの保留や土壇場で辞退した奨学生などが理由で)未使用の寄付金は、地区財団活動資金(DDF)として維持されます。毎年、地区は、未配分の DDF を財団のポリオ撲滅活動、あるいは現在では「ロータリーの 1 億ドルのチャレンジ」の支援に充てるために指定することができます。さらに、今ロータリー年度(2008 年 6 月 30 日まで)に寄せられる年次プログラム基金(シェア)への寄付も、チャレンジの 3 年目(最終年)となる 2010-11 年度に利用可能な DDF となります。

従って、年次プログラム基金(「毎年あなたも 100 ドルを」)への寄付は、すべての財団プログラムを支えると同時に、ポリオのない世界という現在の募金目標の達成にも寄与することができるのです。